

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	697 市街地整備推進事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	04	都市計画費
基本	27 秩序の中にもぎわいのある都市空間をつくる	目	02	市街地整備推進費
策		細目	371	市街地整備推進事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	51	市街地整備推進事業費
担当部署	コード 190700 産業建設部都市計画課	担当者氏名	山本幸一郎	連絡先 43 - 2314 (内線) 266

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀市景観計画の進行管理	※対象件数
成果(どうする)	伊賀市景観計画に基づき、伊賀市の自然、歴史、文化等を活かした個性豊かな伊賀らしい景観まちづくりを進め、愛着と誇りを持てる「ふるさと伊賀」の実現ができる。	
根拠法令・要綱等	景観法、伊賀市ふるさと風景づくり条例	
開始年度	平成 13 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	街なみ環境整備事業
H22 事業内容	伊賀市景観計画の進行管理と伊賀市ふるさと風景づくり条例の運用と、それに基づく指導・相談。	
社会情勢の変化等	2010年3月に携帯電話会社の一つから、基地局増設計画が発表された。これに併せ、昨年に比べ携帯電話基地局の設置に係る届出が増えた。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
広報回数	回		目標			2
			実績			2
			目標			
			実績			

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
広報回数	回	市民へどれだけ広報しているかが周知の目安となる。	目標			2	
			実績			2	
			目標				
			実績				

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金	182	121	365	365
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	182	121	365	365
	事業投入人員費(B)	0.3人	2,160.0人	2,160.0人	2,160.0人
	フルコスト(A)+(B)	2,342	2,281	2,525	2,525

事務事業の評価(Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
有効性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
効率性	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
【事業名】		
受益者負担を求めることができる事業である。		
全体コストにおける負担構成は適正である。		
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	更なる制度の普及と指導・監視を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 通年にわたり制度に基づく、相談・指導を実施した。また、年度末に審議会を開催し、景観計画・制度の運用状況を説明し、評価を受けた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	清水 仁敏
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 景観計画に沿い「伝統と風格のある城下町にふさわしいまちなみ」の保存と再生、継承のため、今後も継続する必要がある。
現時点における課題、その他	審議会において、景観計画に沿い適正な管理を行っているとのことであった。今後も、まちなみの保存、再生ならびに継承に対する住民意識の向上を図る。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	継続した指導と監視を行う。